

1

問題のページへ

- (1) 条件より, $f(x)=0$ すなわち $x^3 - 3ax + 2b = 0$ の解を $x = \alpha$, α , β とおくと, 解と係数の関係より,

$$2\alpha + \beta = 0 \dots\dots\dots, \quad \alpha^2 + 2\alpha\beta = -3a \dots\dots\dots, \quad \alpha^2\beta = -2b \dots\dots\dots$$

より $\beta = -2\alpha$ となり, 代入すると,

$$\alpha^2 - 4\alpha^2 = -3a, \quad -2\alpha^3 = -2b$$

すると, $\alpha^2 = a$ かつ $\alpha^3 = b$ から, $a^3 = b^2$ となる。

- (2) $C: y = x^{\frac{2}{3}}$ 上の接点を $(t, t^{\frac{2}{3}})$ とおくと, $y' = \frac{2}{3}x^{-\frac{1}{3}}$ より, 接線の方程式は,

$$y - t^{\frac{2}{3}} = \frac{2}{3}t^{-\frac{1}{3}}(x - t), \quad y = \frac{2}{3}t^{-\frac{1}{3}}x + \frac{1}{3}t^{\frac{2}{3}}$$

直線 $l: y = mx + \frac{1}{3}$ と一致することより,

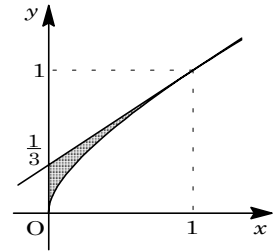
$$\frac{2}{3}t^{-\frac{1}{3}} = m \dots\dots\dots, \quad \frac{1}{3}t^{\frac{2}{3}} = \frac{1}{3} \dots\dots\dots$$

$t > 0$ より, から $t=1$ となり, 接点の座標は $(1, 1)$, また から $m = \frac{2}{3}$ である。

さて, 直線 l , 曲線 C および y 軸で囲まれた部分を y 軸のまわりに 1 回転してできる回転体の体積を V とすると,

$C: x = y^{\frac{3}{2}}$ より,

$$\begin{aligned} V &= \pi \int_0^1 \left(y^{\frac{3}{2}}\right)^2 dy - \frac{1}{3}\pi \cdot 1^2 \cdot \left(1 - \frac{1}{3}\right) \\ &= \pi \int_0^1 y^3 dy - \frac{2}{9}\pi = \frac{1}{4}\pi - \frac{2}{9}\pi = \frac{1}{36}\pi \end{aligned}$$



[解 説]

小問 2 題という構成に変わりました。どちらも, 基本的な内容です。

2

問題のページへ

(1) (i) $x \neq 0$ のとき $xw = yz$ から $w = \frac{yz}{x}$ となり,

$$\vec{v} = \begin{pmatrix} z \\ w \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} z \\ \frac{yz}{x} \end{pmatrix} = \frac{z}{x} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} = \frac{z}{x} \vec{u}$$

(ii) $x = 0$ のとき $\vec{u} \neq \vec{0}$ から $y \neq 0$ で, $xw = yz$ から $z = 0$, $\vec{v} \neq \vec{0}$ から $w \neq 0$ となり,

$$\vec{v} = \begin{pmatrix} 0 \\ w \end{pmatrix} = \frac{w}{y} \begin{pmatrix} 0 \\ y \end{pmatrix} = \frac{w}{y} \vec{u}$$

(i)(ii)より, いずれの場合も \vec{u} と \vec{v} は平行である。

(2) X が逆行列をもたない条件は, $\det X = 0$ から, $xw = yz$

このとき, (1)より, \vec{u} と \vec{v} は平行であり, $\vec{v} = k\vec{u}$ ($k \neq 0$) と表せる。

ここで, 条件より,

$$A\vec{u} = a\vec{u} \dots\dots\dots, \quad A\vec{v} = b\vec{v} \dots\dots\dots$$

より, $Ak\vec{u} = bk\vec{u}$ となり, $k \neq 0$ から $A\vec{u} = b\vec{u}$

より, $a\vec{u} = b\vec{u}$ となり, $\vec{u} \neq \vec{0}$ から $a = b$ である。

(3) (2)より, $a \neq b$ ならば X は逆行列をもち, $\det X \neq 0$ である。

をまとめると, $A \begin{pmatrix} x & z \\ y & w \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} ax & bz \\ ay & bw \end{pmatrix}$ となり,

$$A \begin{pmatrix} x & z \\ y & w \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x & z \\ y & w \end{pmatrix} \begin{pmatrix} a & 0 \\ 0 & b \end{pmatrix}, \quad AX = X \begin{pmatrix} a & 0 \\ 0 & b \end{pmatrix}$$

ここで, $\det \begin{pmatrix} a & 0 \\ 0 & b \end{pmatrix} = ab$ より, 両辺の行列式をとると,

$$\det A \cdot \det X = ab \det X$$

$ab \neq 0$ から $\det A \neq 0$ となり, A は逆行列をもつ。

[解 説]

有名な定理の証明です。誘導に従うと, 無理なく進みます。

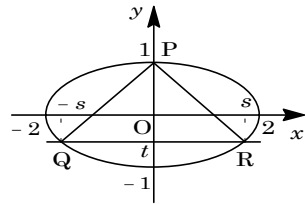
3

問題のページへ

(1) PQR の面積 $S(t)$ は、

$$S(t) = \frac{1}{2} \cdot 2s(1-t) = s(1-t)$$

ここで、 $\frac{s^2}{4} + t^2 = 1$ より、 $s = 2\cos\theta$ 、 $t = \sin\theta$ とおける。すると、 $s > 0$ 、 $-1 < t < 1$ から、 $-\frac{\pi}{2} < \theta < \frac{\pi}{2}$ とな



り、 $S(t) = f(\theta)$ とすると、

$$f(\theta) = 2\cos\theta(1 - \sin\theta)$$

$$f'(\theta) = -2\sin\theta(1 - \sin\theta) - 2\cos^2\theta = 4\sin^2\theta - 2\sin\theta - 2$$

$$= 2(2\sin\theta + 1)(\sin\theta - 1)$$

よって、右表より $S(t)$ は最大値 $\frac{3\sqrt{3}}{2}$

をとる。このとき、 $\theta = -\frac{\pi}{6}$ から $s = \sqrt{3}$ 、

$t = -\frac{1}{2}$ となり、 $R(\sqrt{3}, -\frac{1}{2})$ である。

θ	$-\frac{\pi}{2}$...	$-\frac{\pi}{6}$...	$\frac{\pi}{2}$
$f'(\theta)$		+	0	-	
$f(\theta)$		↗	$\frac{3\sqrt{3}}{2}$	↘	

(2) R における接線 l は $\frac{\sqrt{3}}{4}x - \frac{1}{2}y = 1$ となり、 x 軸との交点は $T(\frac{4}{\sqrt{3}}, 0)$ である。

これより、 $\overrightarrow{RT} = (\frac{\sqrt{3}}{3}, \frac{1}{2})$ 、 $\overrightarrow{RP} = (-\sqrt{3}, \frac{3}{2})$ となり、

$$\cos \angle PRT = \frac{\overrightarrow{RT} \cdot \overrightarrow{RP}}{|\overrightarrow{RT}| \cdot |\overrightarrow{RP}|} = \frac{-1 + \frac{3}{4}}{\sqrt{\frac{1}{3} + \frac{1}{4}} \sqrt{3 + \frac{9}{4}}} = -\frac{1}{7}$$

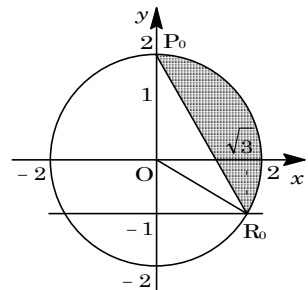
(3) 楕円 C を y 軸方向に 2 倍拡大すると、点 P は $P_0(0, 2)$ 、点 R は $R_0(\sqrt{3}, -1)$ に移り、 $\angle P_0OR_0 = \frac{2}{3}\pi$ となる。

ここで、右図の弓形の面積を S_0 とおくと、

$$S_0 = \frac{1}{2} \cdot 2^2 \cdot \frac{2}{3}\pi - \frac{1}{2} \cdot 2^2 \sin \frac{2}{3}\pi = \frac{4}{3}\pi - \sqrt{3}$$

すると、直線 PR によって分割される楕円 C の原点を含まない部分の面積 S は、

$$S = \frac{1}{2} S_0 = \frac{2}{3}\pi - \frac{\sqrt{3}}{2}$$



[解 説]

楕円についての基本的な問題です。(3)では、楕円を円にいったん変換して、面積を計算しました。

4

問題のページへ

- (1) 終了直前に取り出した玉の数字は、 $0+4, 1+3, 2+2, 3+1, 4+0$ のいずれかである。ここで、ちょうど k 回目の試行で終了する確率を P_k とすると、

$$P_2 = \frac{1}{5} \times \frac{1}{5} \times 5 = \frac{1}{5}, \quad P_3 = (1 - P_2) \times \frac{1}{5} = \frac{4}{25}, \quad P_4 = (1 - P_2 - P_3) \times \frac{1}{5} = \frac{16}{125}$$

これより、一般的に $P_k = \frac{1}{5} \left(\frac{4}{5}\right)^{k-2}$ と推測できる。以下、この式を数学的帰納法を用いて証明する。

(i) $k=2$ のとき $P_2 = \frac{1}{5} \left(\frac{4}{5}\right)^0 = \frac{1}{5}$ より成立する。

(ii) $k=l$ のとき $P_k = \frac{1}{5} \left(\frac{4}{5}\right)^{k-2}$ と仮定すると、

$$\begin{aligned} P_{l+1} &= (1 - P_2 - P_3 - \dots - P_l) \times \frac{1}{5} \\ &= \left\{ 1 - \frac{1}{5} - \frac{1}{5} \cdot \frac{4}{5} - \frac{1}{5} \left(\frac{4}{5}\right)^2 - \dots - \frac{1}{5} \left(\frac{4}{5}\right)^{l-2} \right\} \times \frac{1}{5} \\ &= \left\{ 1 - \frac{1}{5} \cdot \frac{1 - \left(\frac{4}{5}\right)^{l-1}}{1 - \frac{4}{5}} \right\} \times \frac{1}{5} = \left\{ 1 - 1 + \left(\frac{4}{5}\right)^{l-1} \right\} \times \frac{1}{5} = \frac{1}{5} \left(\frac{4}{5}\right)^{l-1} \end{aligned}$$

よって、 $k=l+1$ のときも成立する。

(i)(ii)より、 $2 \leq k \leq n$ のとき、 $P_k = \frac{1}{5} \left(\frac{4}{5}\right)^{k-2}$ である。

- (2) 2回の試行で終了したとき、得点が0以外、すなわち1, 2, 3, 4となる確率は、それぞれ $\frac{1}{5} P_2 = \frac{1}{25}$ ずつであるので、その期待値 E_2 は、

$$E_2 = 1 \times \frac{1}{25} + 2 \times \frac{1}{25} + 3 \times \frac{1}{25} + 4 \times \frac{1}{25} = \frac{2}{5}$$

また、3回以下の試行で終了したとき、得点が0以外、すなわち1, 2, 3, 4となる確率は、それぞれ $\frac{1}{5} P_2 + \frac{1}{5} P_3 = \frac{9}{125}$ ずつであるので、その期待値 E_3 は、

$$E_3 = 1 \times \frac{9}{125} + 2 \times \frac{9}{125} + 3 \times \frac{9}{125} + 4 \times \frac{9}{125} = \frac{18}{25}$$

同様に、 n 回以下の試行で終了したとき、得点が0以外、すなわち1, 2, 3, 4となる確率は、それぞれ、

$$\begin{aligned} \frac{1}{5} P_2 + \frac{1}{5} P_3 + \dots + \frac{1}{5} P_n &= \frac{1}{5} \left\{ \frac{1}{5} + \frac{1}{5} \cdot \frac{4}{5} + \frac{1}{5} \left(\frac{4}{5}\right)^2 + \dots + \frac{1}{5} \left(\frac{4}{5}\right)^{n-2} \right\} \\ &= \frac{1}{5} \left\{ 1 - \left(\frac{4}{5}\right)^{n-1} \right\} \end{aligned}$$

よって、得点の期待値 E_n は、

$$E_n = (1+2+3+4) \times \frac{1}{5} \left\{ 1 - \left(\frac{4}{5}\right)^{n-1} \right\} = 2 \left\{ 1 - \left(\frac{4}{5}\right)^{n-1} \right\}$$

- (3) (2)から、 $\alpha = \lim_{n \rightarrow \infty} E_n = 2$ となり、 $E_n = \alpha - \frac{1}{100} \dots \dots (*)$ より、

$$2\left\{1 - \left(\frac{4}{5}\right)^{n-1}\right\} > 2 - \frac{1}{100}, \quad \left(\frac{4}{5}\right)^{n-1} < \frac{1}{200}$$

両辺の対数をとって,

$$(n-1)(\log_{10} 4 - \log_{10} 5) > -(\log_{10} 5 + \log_{10} 4 + 1)$$

$$(n-1)(3\log_{10} 2 - 1) > -(2 + \log_{10} 2)$$

$3\log_{10} 2 - 1 < 0$ より,

$$n < \frac{2 + \log_{10} 2}{1 - 3\log_{10} 2} + 1 \approx 24.7$$

よって, (*)を満たす最小の自然数 n は 25 である。

[解説]

(1)と(2)は, とともに題意に沿った形で, 帰納的に解いています。なお, 直接的に P_k を導くことも可能です。